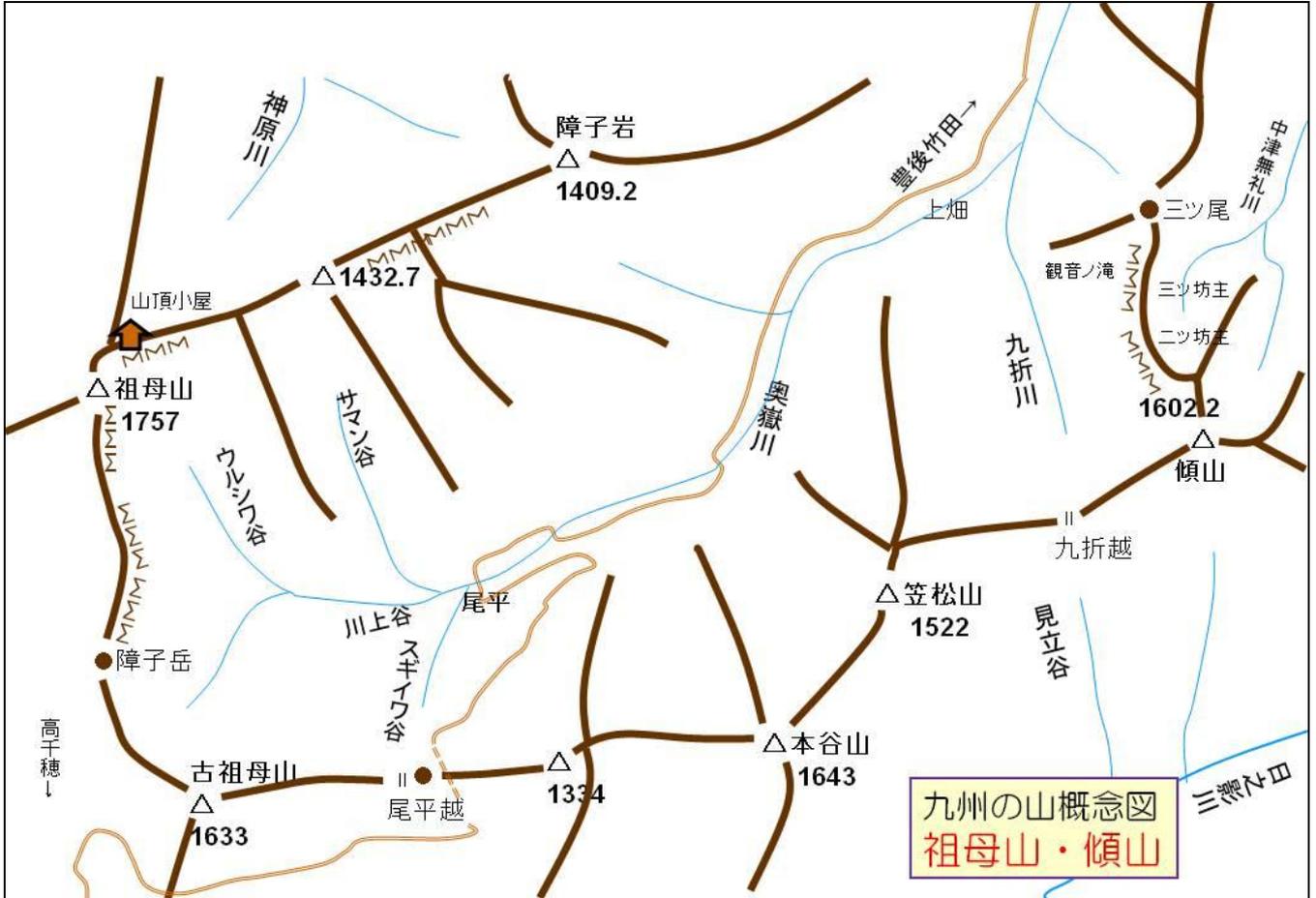


# 踏み跡 <My Mountains>

九州(傾山)	九折(つづら)から傾山	No.193
--------	-------------	--------

祖母山と傾山は合わせて一つのもの、地理的に見てもそうだし九州の名山をあげてみてもやはりそうだ。昨年三月、祖母山へ行った時から「傾山は絶対行かねば」と思っていた。祖母山から見たあの特徴的な岩峰を思い浮かべながら、資料を調べて旅の準備を進めた。



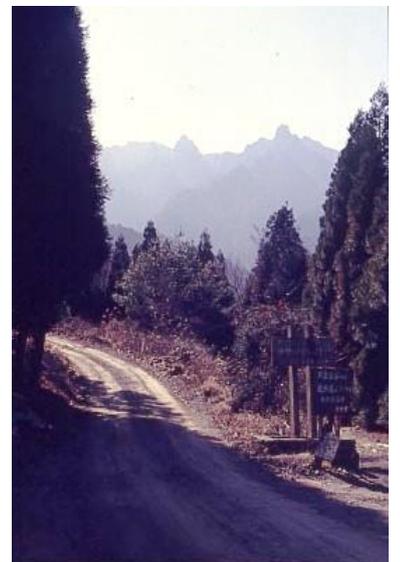
昭和57年6月11日

12時15分と遅い出発。走りなれた道を日田・杖立温泉・瀬の本経由で豊後竹田へ。竹田で食糧を調達して傾山の懐の鉦山（豊栄鉦業所）跡へ18時05分に到着。地図上の表示によると、ここは錫採掘の鉦山だったようだ。今日は初の車中泊を体験してみることにした。

夕食の支度に入ってびっくり、ホエーブスは満タンの筈だったが空っぽで使えない。やむを得ず久しぶりに焚火で食事となった。夕食は缶ビール二本・オムレツ・サバ・ご飯に納豆汁、どこかの定食屋のメニューと似たものになった。缶ビールは初の車中泊での熟睡を狙ったもの。

しかし、なかなか寝心地の良いポジショニングができず。あちらこちらと位置や姿勢を変えた結果助手席の椅子を倒して寝るのが一番良いことが分かった。

(右写真：傾山の岩峰群)



昭和57年6月12日

7時起床。天気は快晴、ほんに「傾山日和」。朝食はうまかつちゃん（インスタントラーメン）にコーヒー。山犬か狼か？4匹が橋の上から見下ろしている。視線を合わせたら逃げて行った。

7時45分に出発。九折川の谷を遡って登って行くと、観音滝経由で三ツ尾に上がる道との分岐点に導標があった。意外に整備されている山ようだ。8時45分旧林道を横切って小尾根に取り付くと急登が始まっ

## 踏み跡 <My Mountains>

た。熊笹と松杉を中心とした林で、日が当らず風もないし見晴らしもきかない。空冷が効かないのでちょっと歩いてだけで体が火照ってくる。



九折越 9時 50分、小さいけれど草原になっていて気持ちが良い。傾山がわずかに見えるのみ。(左写真)

九折小屋はガイドブックに書いてある説明に反して、随分がっちりしている。小屋の裏側に落とゼンマイの大群落を発見したが、ゼンマイはすでに時遅し。落を土産に頂いて行くことにした。

10時 15分荷物を置いて笠松山を往復。笠松山はその山容とはそぐわぬ小さな頂上で、林の中ゆえ展望も全く得られない。

11時 30分九折小屋に戻って昼食(ブドウパンにおかずの缶詰)。水場へ5分とのことなので下って「冷たくて美味しい水」を500cc腹

に詰め込み、傾山をめざして12時10分出発。

傾山(1602.2m)13時15分。頂上には二等三角点があるが、国土地理院の人が二人で工事をしていた。三角点の工事中は初めて見た。

レモンとチョコレートと水で午後のおやつ。

祖母山・五葉山・久住などが見えるが、霞がかかったようであまり鮮やかには見えない。

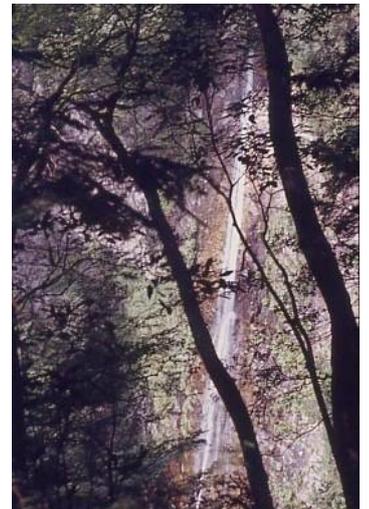
傾山から三ツ尾への稜線はかなり悪い岩場なので、二ツ坊主・三ツ坊主の岩場は危険を回避するため東側の中津無礼川の谷に少し下りてから岩稜を巻くようにして歩を進めた。

三ツ尾から西へ九折川の谷へ下山。途中で谷の対岸に見えた観音ノ滝は素晴らしい滝だ。高さ数百メートルの垂直の一枚岩を三条の白い水が落ちている。こういう滝はいまだかつて見たことがない。(右写真)

16時、豊栄鉱業所跡の車デポ地点に帰着。ジュースとコーヒーで無事帰着を祝し、登山靴を運転用の靴に履き替え。今回の山行で出会った人間は、国土地理院の三角点工事人二名だけだった。とても静かな山歩きだった。

16時40分に出発し、竹田・阿蘇・熊本インター・・・と往路を戻り、自宅帰着は20時50分。(今回の走行距離=395Km)

これで憧れの山「祖母山・傾山」は終わった。聳えるスラブの絶壁、内容豊富な沢、頂上からの眺め、どこから見ても「あれが傾山!!」とわかる説得力のある岩峰、傾山は素晴らしい山ではあるが、登る途中で景色が楽しめないのだけが残念な山だ。特徴的な岩峰と遠望の素晴らしさは傾山が優れていた。しかし、山全体の持つ大きさや実際に歩いてみた印象では祖母山の方が重量感を感じた。ともあれ「祖母・傾」と言われるだけに、誠にもって好一对とすることができる。



以上